

15期 舟田節子

「私には、時間がない！」が、2歳上の山友の決め台詞です。嫁した娘が二人の彼女の場合、この先、墓終いや、施設の選択も控えています。「旦那もそうだったけど、死んだ者勝ちよ！」とも。私は半分笑って、半分冷やややか…。ケースバイケースがあるにせよ、「山の引き際」や、「いつ、どこを『見納め』とするのか？」については、やはり、考えてしまうからです。

コロナ禍は、高齢者にとっては、人生を変えるには相当しなかった方はずゆえ、被害を言い立てまいとは思ふものの、ただでさえ体力下り坂の、拍車をかけました。ステイホームの間に、あきらかに「えっと、えっと…」や「何だったっけ…」が進んだ知人達があります。

行動制限の出なかった今年の夏山には、やはり「時間がない！」と焦った登山者が多かったようなのです。

今シーズンの遭難の特徴について、長野県山岳遭難救助隊隊長は以下のような分析・報告を出しました。

「無事救出の人数が、負傷者を上回り、過去5年で最高となった。事前準備や体力・技量不足のため、体力や集中力が低下しやすい下山中の転倒や、行動中の疲労・病気遭難が増加し、滑落は減少。したがって、遭難者数は増えたが、死者は減少」

日帰りや一泊二日コースにとどめても、やはり、体がついていかなかったり、経年疲労ともいうべき持病をかかえていたり…。悲しいかな、憧れと現実との乖離です。

マイペース登山を支えてくれた、というか、まあ、そうならざるをえなかった夫は、「後期高齢者になった」を、言い立てるようになりました。足が痺れる、腰が痛い…。コロナ2年目の昨年にして、行けたのは、白山、立山止まり。このままずるずる…も、無念。でも、在職中で、職場への多大な迷惑を考えたら、基本はやはり、自粛でした。

コロナ3年目、ワクチンとのイタチごっこに、さすがに辟易になってきました。微生物と免疫力とのせめぎあい、38億年前からあった！社会性

ある動物である人から、社会性を消すわけにはいかない、しょせん、「共存」なのだ！

ようやく復活してきた山ツアーに、積極的に乗ることにしました。定員減で以前より割高にはなりましたが、一人2座席は快適な空間です。

春先から、花追いやハイキングや、低山+温泉を活用して、徐々にランクアップしながら夏山準備をしよう！

それが、滋賀県の太神山、矢筈ヶ岳、岐阜県の納古山、福井県青葉山、長崎県壱岐対馬、尾瀬縦断、長野県鷹狩山、荒船山、浅間前掛山などでした。その間には、夫との花見のオンソリ山や医王山、奥師子吼などをいれましたから、毎週行動ペースには復活できました。



《対馬の白嶽 雄岳からの雌岳 2022. 5. 15》

次々と咲く季節の花が、変わらず待っていてくれたかと、嬉しくて、ワングルHPにはせつせと送信しました。みなさん、コロナ禍からどんな復活をやっていくものか？投稿であれこれ聞けたらいいなあ…でしたが、どうも、当方が焦った山狂いにしか見えなかったような…。

昔なら、この手で、そこそこ復活できたのです。ところが、世間は、より健康指向となっていました。ジムや、ヨガや水泳に通うのが当たり前。浅野川沿いの我が家の前は、格好のジョギングコースです。

桜の落ち葉を、毎朝掃いている古希越えとしては、「公道の掃き掃除はしないが、イヤフォンで耳を塞いでのジョギングをたしなむ人は多数」です。ついでに「ペットを散歩させて、糞の始末をしない飼い主も多数」です。

スマホが、恐ろしい状況を産み出しています。危ない交差点ですら、子供への注意よりスマホをチェックしている親を始め、視界に入る9割以上が、スマホを触り、優先順位や、関心や、価値観が大きく変わりだしています。

その価値観とは、どうもリア充（私の場合、新書からの入力）となるらしい…。いち早く、話題の映画を見たり、アニメの結末を知っていたり、お店やイベントを知っていたり、時流に敏感で、ランク付けして、「自分らしく」生きている…そんな充実した私を発信して「いいね！」をゲットする。

忙しい日常や家庭から、ちょっと息抜きに出て、ホッと一息といった、軸足が定まった人の楽しみ方と、どこか違う…。

山ツアーでは、「私は健康で、澁刺と生きているわよ！」をアピールしたくてしかたがないようです。やたらはしゃいで、逆らうはずのないガイドにちょっかいをかけ、せつつく…。ゆっくり自然を楽しむどころではなく、わき目もふらず最初からトップスピード。エクセサイズの延長のごとく、猛然と歩いて「気持ちイイ〜！」。決めポーズの写真を撮り、即送信し、花も、山名も、スマホを掲げて（違うことも多いのに）、「〇〇だって！」で、お終いです。

下山後達成感に浸れるならともかく、不快感がどっと残るようになりました。「山の引き際」を考えている私、ついつい、粗さがし気味なのかもしれません。



《双六小屋と鷲羽・水晶 2022. 7. 26》

ともあれ夏山として、7月25～27日には「小池

新道を鏡平山荘泊で、双六岳往復」と、8月11～13日には「猿倉～鑓温泉～白馬鑓～白馬～白馬大池～柵池」の2本を歩きました。台風も含めた悪天と、コロナ感染者による営業自粛が度々あった中、幸いに天候には恵まれた方となり、満足できました。

コロナ禍で宿泊予約が必須となり、PCで進めていくと、どんどんリンク先が見つかりました。そこには大晴天のもと、ドローン映像も含めた絶景が広がっています。VRが進んでいく中、もう、そちらで楽しんでもいいのかも…。

さて某月刊機関誌には、以下の山々を紹介しました。コロナの波状攻撃のせいで、ますます昔話でも気後れなく書けることになりました。

11月号…摩利支天山

12月号…大長山

1月号…マナスル

2月号…丹沢山

3月号…眉丈山、七尾城山

4月号…御柱祭、霧ヶ峰

5月号…霧訪山

6月号…天城山

7月号…知床連山

8月号…薬師岳

9月号…朝日岳・柵海新道

10月号…西穂高、奥丸山

「摩利支天山」…御嶽大爆発の7回忌が行われたのを契機に、秋の濁河温泉からの摩利支天山を紹介しました。2014年9月27日、燕温泉にむかう車でこの爆発ニュースを聞き、翌日、噴煙を妙高山から眺めました。秋山JOYが地獄になった悲惨には、気鬱が尾を引きました。山での一般登山者のヘルメット装着は、この時からでした。噴火警戒情報も進歩したのでした。

「大長山」…ガイド本の改訂時期は、単に在庫量で決まります。「分県ガイド」の改訂も、冬場に！たった2週間でチェック！という非現実的。でも市の瀬三ツ谷から小原峠への道を、是非改訂時に加えたかったので、雪の中を撮影に行っていまし

た。大長山を全国区にしたのは、2004年2月の関西大学ワングルの遭難でした。また、越前禅定道の標柱立て作業にはオープン参加していたので、どんな手続きや労力で、古道が復活するかも紹介としました。

「マナスル」…2015年4月25日におきたネパール大地震。年末になってようやく復興支援企画のトレッキングが出るようになりました。ソバナ・バジュラチャリアさん(会報33号で紹介)にお見舞いを手渡したくて参加。結果、日本のお正月はカット。カトマンズで初日の出を拝みました。

まだ混迷の現地ゆえ、温かい2200mの素朴な山村の展望地まででした。人なつこい子供達や、鋤を投げ出して深々と挨拶を返す純朴な村民に、癒されました。この時は、震災後のネパールへ行きたくて立案したという、鼻先、指先、爪先のない奥田ガイド(イモトアヤコのバックアップで有名)にびっくり(予備知識なしで、異形が先に目に入ってしまったため)したり、「(6日前)ケイちゃん(谷口ケイさん)が亡くなったんだね。この前は、この本を貰ったのに…」の後にはもう話題にしなかったシェルパ達に、これがヒマラヤ登攀の世界だと思ったり…。雪煙をあげるマナスル、夕映えでピンクに染まるマナスルを、ごく普通の農村の背景に眺めて、「雪の住処」ヒマラヤを体感しました。

また、地震の被害よりも、インドからの石油関係がストップしてのインフラ被害の方が甚だしく、外交とは卑劣・冷徹も、思い知りました。



《奥田ガイドと。左：マナスル 右：ピーク29

ネパールのガーレガオン村 2015.12.30》

「丹沢山」…秋の丹沢主脈が、ガスの中を登っただけに終わってしまったので、表尾根経由での丹

沢主稜でリベンジしました。輪カンではなく、6本爪アイゼンの選択になることに、やや感動。冬場に見え続ける冠雪の富士にも感激。大倉尾根を下りて、これで、都会人間の山常識が身に付いた…と、思ったものでした。

「眉丈山、七尾城山」…分県ガイドで、52コースを挙げようとする、入ってくる山。不遜ながら、晩秋から早春の間に仕方なく、いくつか梯子して、山遊びとしています。

眉丈山(雷ヶ峰)は邑知地溝帯の両脇に広がる古墳群の最高峰。その遺構以外にあまり判明していないのが、傍流であったことを偲ばせます。七尾城山は立派な石垣が残り、最近のブームで、一層人気のある山城です。

「御柱祭り、霧ヶ峰」…諏訪の大祭・御柱祭が、部分開催になったことで、7年前の山行を思い出し、取り上げました。

知人の知人が氏子だったことで紛れ込め、御柱を曳行。引き続き、棚木場(山出し開始地点)から観音沢経由で霧ヶ峰に至るとい、まさにロコならではの企画でした。旧御射山も、鎌倉殿が狩座を催した丘で、大河ドラマの年に紹介がふさわしいとしての選択。また「山小舎の灯」は、歌碑が立つ奥霧小屋で練られた構想ということも確認。多方面の楽しみ方が考えられると思えた山行でした。

「霧訪山」…5月は、選択に困るほど候補があるのですが、中央分水嶺の山という拘り方もある…で、紹介としました。

「頂上に自生するオキナグサ」は若干眉唾物と思いますが、私達がでかけたときの目的は、山ノ神自然園でのレンプクソウ探しの方でした。(北京)五輪の年の五輪花も悪くない…でしたが、さして気づいてはもらえなかったよう。これくらいの標高は、ちょうど花盛りになっていて、春のエネルギーに染まる気分になれます。

「天城山」…第6波直前に成立したツアーでした。アマギシャクナゲや、アセビのトンネル、天城からの富士…いずれも秋のガス山では不可での、リベンジ参加でした。ツアーならこそ、半島の反対側の天城トンネルや踊子歩道も歩けました。熱川温泉の宿から見上げた急峻な崖…1カ月後には、同じ地形の伊豆山で土石流が発生していました。

「知床連山」…観光船事故により「知床」がちら

つき、知床連山のシレットコスミレを取り上げました。

世界自然遺産指定直後に防災工事で5年間知床公園線は通行止めになっていました。その5年が明けて直後のツアーだったために登山道が荒れており、ハイマツを掻き分けての、羅臼から硫黄山への北上でした。下山直後に、真新しいヒグマの足跡を見つけ、改めてゾッとしたものでした。北海道では超晴れ女の私、この縦走だけは、完全に雨中行軍でした。

「薬師岳」…立山から縦走しての薬師岳を紹介しました。スゴ乗越泊まりだと、半日歩きコースばかりとなり、午前の大展望を満喫して歩けます。実は高1で家族登山だったコースです（槍までだったのを、伊藤新道で抜けた）。家族登山最優先のため、テニスの試合に出られなくなり、ずっとむくっていました。そんなことまでが思い出されました。

コバイケイソウ群生の年で、それで白くなった五色が原の奥に槍ヶ岳…は、ベストショットと思いました。でも、編集者にお任せの選択の内には入りませんでした。思い出やこだわりこそは、個別のものです。

「朝日岳、榎海新道」…朝日小屋泊は3回目でした。管理人の清水ゆかりさんのお姉さんが、金沢局でラジオアナウンサーをやっていて、北陸の百山の話で取材を受けたこともあります。そもそも、昭和59年、朝日小屋の所有者大蓮華保勝会が、朝日町町制施行30周年記念で公募したのが白馬岳・朝日岳登山でした。小3と小1連れだった私は「弟も年長の時、チブリ尾根を下りています」と、認めてもらい参加したのです。

機関誌の方には書きませんでした。山をやっと再開できた頃、ナカオへ入会の決意をした頃です。

榎海新道は、開通40周年で整備が入るのをチャンスと、決行。マイカーを坂田峠側に停めて、タクシーで北又小屋へ。やたら長かった…。山の水を決して飲まない夫が、唯一、飲んでしまったのがここ。水場へ2往復したのは、荷物も重かった私の方ですが…。場所取りに、榎海山荘に私は先行。夫がなかなか来ない…と案じたら、しばしの仮眠の後、反対方向に歩いていたそう。「軽い熱中症になっていたんだろうな」と。よくもまあ、節

子兎に攪乱され、連れ回されているものです。

「西穂高、奥丸山」…2人で再訪した10年前、主峰手前の逆層スラブが怖くて、歳のせいかとめげていたら、数日後、やはり、滑落事故がおきていました。四半世紀前には、中1と小5を連れ、2歳児を担いだ家族登山で登っていましたが、こんなに危なかったはずがないと、不可解に。あの松本深志高校の落雷遭難が、西穂高からの帰りの学校登山であったことから、当時は、一般登山道がついていたわけです。やはり「岩の穂高」は崩落が激しいのです。

奥丸山は、中崎尾根の展望ピークです。これまで通過だけだった槍平に泊まり、秋の展望を楽しみました。



《ピラミッドピークから 西穂と拉致され顔の息子達。 山便りの年賀状 1988. 10. 9》

双六行きのため、久しぶりに買った集成図には、「2021年度地震により通行止」などの注意書きが増えていました。天候不順や、コロナで、登山道管理が不十分につき、最新情報取得が必要です。

現場の山にあっては違和感を抱え、機関誌にあってはやたら思い出をたどり、そうか…景色に思い出がまつわる…それでいいのだ、それが、いい山時間を過ごしてきたということなのだ、と達観しようとしています。

いえ、あと、2コース、申し込んであり、節子はまだまだ煩惱まみれ、言動不一致です…。